

## <2月定例研究会の報告>

平成29年2月18日（土）、当研究所で定例研究会が行なわれました。  
研究会のテーマは、<「単語構成」 清音2文字の単語構成 >です。  
午後5時から研究授業、5時30分から研究協議を行ないました。

研究授業者：高橋幸恵（つばき教育研究所スタッフ）  
対象の生徒：特別支援学校 中学1年生  
テーマ：「単語構成」  
学習内容：清音2文字の単語構成

### 1. 学習経過

平成23年6月より、週1回の学習を開始した。  
現在までの学習の経過は、以下の通りである。

#### (1) 基礎学習（平成23年6月～現在）

以下の学習を行なった。

- 延滞の学習
- 形の弁別の学習（○△□、面図形、線図形）
- 同じの概念形成の学習
- 未測定の理解（大小、大中小[3個、5個]、高低[3個、5個]、多少）
- 空間概念の形成（順序、上下、左右）

空間概念の形成（左右）は、現在も学習中である。

#### (2) 文字の学習（単語構成の学習）（平成24年9月～現在）

文字に対する興味関心も高かったため、上下の学習がある程度終了した段階で、基礎学習と並行して文字の学習に進んだ。

- 文字の学習時間は、5～10分程度からスタートした。今年度頃より学習に向かう姿勢が整ってきている。現在は、文字の学習を中心に課題を組み、1回60分の学習時間のうち、文字の学習が30分程度できるようになってきている。
- 学習開始時から、何かを書くことが楽しい、書きたいという様子が見られた。細部まで正しく書くことはまだ難しい文字もあるが、視覚弁別力が向上してきており、文字を見て書くことも上手になってきている。

今後さらに文字の学習をすすめていくために、以下の点に留意し、学習を行なっている。

- 色々なものに興味を惹かれる様子が見られるので、玄関や学習室内、机上の学習空間において目に入るものは、学習に必要なものだけにする。

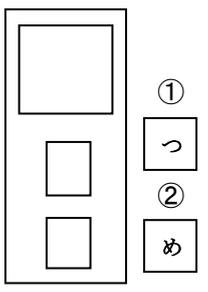
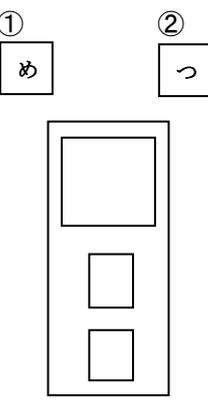
- 指導者のことばかけは、学習に必要なことばのみとなるよう心掛ける。
- 学習場面において、できる限り注意や指示のことばが生じないように学習を展開する。
- 子どもが行動を起こす前に、何をすべきかを教える。
- 文字カードの呈示時は、よく見せる、よく見比べていることを確認する。

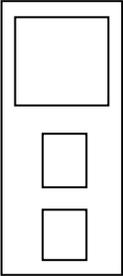
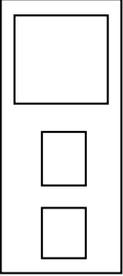
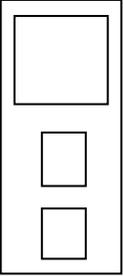
## 2. 本時の学習

### (1) 学習課題・ねらい・教材

学習課題	ねらい	教材
カードの名詞を言う	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カードの名詞を言うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「かお」「かき」「かめ」「かさ」のカード</li> </ul>
文字の学習 2文字の単語構成 [つめ]	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 絵カードを見て名称を言うことができる。</li> <li>● 文字カードを順に選び、2文字の構成ができる。</li> <li>● 構成した単語を読むことができる。</li> <li>● 構成した単語を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「つめ」の絵カード</li> <li>● 2文字の単語構成板</li> <li>● 文字カード (5×5cm)</li> <li>● 書字用紙 (7×7cm)</li> </ul>
数字を書く	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1から6まで言うことができる。</li> <li>● 1から6まで書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1から6まで書いてある用紙</li> <li>● 1から6までを書く用紙</li> </ul>
文字の学習 2文字の単語構成 [かに]	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 絵カードを見て名称を言うことができる。</li> <li>● 文字カードを順に選び、2文字の構成ができる。</li> <li>● 構成した単語を読むことができる。</li> <li>● 構成した単語を書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「かに」の絵カード</li> <li>● 2文字の単語構成板</li> <li>● 文字カード (5×5cm)</li> <li>● 書字用紙 (7×7cm)</li> </ul>

### (2) 展開

学習課題	学習内容	留意点
1. はじめの挨拶	「はじめます。」と一緒に言う。	
2. カードの名詞を言う 「かお」「かき」「かめ」「かさ」	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 名詞と絵が書いてあるカードを呈示する。</li> <li>② 名詞を言う。</li> <li>③ 読み終わったカードは箱に入れる。</li> </ol>	名詞は指導者が先に言う。
3. 文字の学習 【つめ】 【1試行目】  【2試行目】 	<p>【1試行目】 1対1対応</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 絵カード【つめ】の呈示 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 絵カードを呈示する。「つめ」と名称を言う。</li> <li>② 絵カードの【つめ】と具体物の“つめ”が同じであることを確認する。</li> <li>③ 構成板を呈示する。</li> <li>④ 構成板の絵カードのマス目に入れる。</li> </ol> </li> <li>2) 文字カード【つ】の呈示と構成 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 文字カードを入れるマス目を順に指差して「つ、め」と言う。</li> <li>② を入れるマス目を指差して「つ」と言う。</li> <li>③ を入れるマス目の右横に文字カードを呈示する。</li> <li>④ 文字カードを指差して「つ」と言う。</li> <li>⑤ マス目に文字カードを入れる。</li> </ol> </li> <li>3) 文字カード【め】の呈示と構成 <ol style="list-style-type: none"> <li>① を入れるマス目を指差して「め」と言う。</li> <li>② を入れるマス目の右横に文字カードを呈示する。</li> <li>③ 文字カードを指差して「め」と言う。</li> <li>④ マス目に文字カードを入れる。</li> <li>⑤ 文字カードを順に指差して「つ」「め」と言う。</li> </ol> </li> <li>4) 「おなじ」 絵カードを指差して「これは【つめ】」、文字カードを1文字ずつ指差ししながら「これも【つ・め】」、「これとこれは、お・な・じ」</li> </ol> <p>【2試行目】 語頭音の文字 利き手側後出し ※構成時指差し無し</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 絵カード【つめ】の呈示 1試行目と同様に行なう。</li> <li>2) 文字カード【め】の呈示 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 文字カードを入れるマス目を順に指差して「つ、め」と言う。</li> <li>② 構成板の左上に文字カードを呈示する。</li> </ol> </li> </ol>	<p>絵カードより先に構成板を出さない。 名称は指導者が先に言う。 異なる名称を言う間を与えないために「これは」などのことばも省く。 以降、絵カードを見ていないときは「見て」と言う。</p> <p>文字は指導者が先に言う。 以降、文字カードを見ていないときは「見て」と言う。 よく見ていないときは、文字カードを指差しするよう促す。</p> <p>文字カードの呈示前に手をひかせて、見る態勢を整える。</p>

<p>〔3 試行目〕</p> <p>②                      ①</p> <p>つ                      め</p>  <p>〔4 試行目〕</p> <p>3 試行目と同様</p>	<p>3) 文字カード〔つ〕の呈示</p> <p>① 構成板の右上に文字カード〔つ〕を呈示する。</p> <p>4) 〔つめ〕の構成</p> <p>① 〔つ〕を入れるマス目を指差して「つ」と言う。</p> <p>② 〔つ〕を選び、マス目に文字カード〔つ〕を入れる。</p> <p>③ 〔め〕を入れるマス目を指差して「め」と言う。</p> <p>④ マス目に文字カード〔め〕を入れる。</p> <p>5) 「おなじ」</p> <p>1 試行目と同様に行なう。</p> <p>6) 〔つめ〕を書く。</p> <p>① 1 マスの書字用紙を呈示する。</p> <p>② 文字カード〔つ〕を呈示、「つ」と言う。</p> <p>③ 指導者が下書きを書く。書いたら「つ」と言う。</p> <p>④ 子どもがなぞる。書いたら「つ」と言う。</p> <p>⑤ 文字カード〔つ〕を一度撤去する。</p> <p>※ 〔め〕も〔つ〕と同様に書く。</p> <p>⑥ 書いた文字〔つ〕を指差して、「つ」と言う。</p> <p>⑦ 書いた文字〔め〕を指差して、「め」と言う。</p> <p>⑧ 書いた文字を順に指差して、「つ」「め」と言う。</p> <p>〔3 試行目〕 語頭音の文字 反利き手側後出し ※構成時〔つ〕指差し有 文字の呈示位置が左右逆になること、「4) 〔つめ〕の構成」で〔つ〕の指差しを行なうこと以外は、2 試行目と同じ手順で 1) ～ 5) まで行なう。</p> <p>〔4 試行目〕 語頭音の文字 反利き手側後出し ※構成時〔つ〕指差し無 3 試行目と同じ手順で 1) ～ 5) まで行なう。但し、「4) 〔つめ〕の構成」で、〔つ〕の指差しは行なわない。2 試行目と同じ手順で 6) を行なう。</p>	<p>先出しの〔め〕の呈示の動きに反応して手が出ないように、必要に応じて「まだだよ」と言う。</p> <p>〔め〕を選ぶ様子が見られたら、「こっち」と〔つ〕を指差しする。</p> <p>文字カードの呈示時やなぞり後に文字を言わないときは、言うように促す。文字カードを見ないで文字を言うときは、文字カードの指差しを促す。書いているところをよく見せる。</p> <p>1人で書ける、書きたい等の発言があったら2枚目は書いてよいが、1枚目は一緒に書くように言う。</p> <p>「つ」と言った後、〔つ〕がわからない様子が見られたら、〔つ〕を指差しする。</p>
<p>4. 数字を書く</p>	<p>① 手本の1～6までの数字を指差ししながら一緒に言う。</p> <p>② 手本を見ながら1～6までの数字を書く。 (2、3はなぞり書き。5は始点のみ印有り。)</p> <p>③ 書いた数字を指差ししながら一緒に言う。</p>	<p>数字の指差しと発声が一致するように援助する。</p>
<p>5. 文字の学習 【かに】</p> <p>〔2 試行目〕</p> <p>②                      ①</p> <p>に                      か</p>  <p>〔3 試行目〕</p> <p>①                      ②</p> <p>か                      に</p> 	<p>〔1 試行目〕 1対1対応</p> <p>「3. 文字の学習〔つめ〕1 試行目」と同様に行なう。</p> <p>〔2 試行目〕 語頭音の文字 利き手側先出し ※構成時〔か〕指差し無</p> <p>1) 絵カード【かに】の呈示</p> <p>1 試行目と同様に行なう。</p> <p>2) 文字カード【か】の呈示</p> <p>① 文字カードを入れるマス目を順に指差して「か、に」と言う。</p> <p>② 構成板の右上に文字カード〔か〕を呈示する。</p> <p>3) 文字カード【に】の呈示</p> <p>① 構成板の左上に文字カード〔に〕を呈示する。</p> <p>4) 【かに】の構成</p> <p>① 〔か〕を入れるマス目を指差して「か」と言う。</p> <p>② 〔か〕を選び、マス目に文字カード〔か〕を入れる。</p> <p>③ 〔に〕を入れるマス目を指差して「に」と言う。</p> <p>④ マス目に文字カード〔に〕を入れる。</p> <p>5) 「おなじ」</p> <p>1 試行目と同様に行なう。</p> <p>〔3 試行目〕 語頭音の文字 反利き手側先出し ※構成時〔か〕指差し無 文字の呈示位置が左右逆になる以外は2 試行目と同じ手順 1) ～ 5) まで行なう。 「3. 文字の学習〔つめ〕2 試行目 6)」と同様に書字を行なう。</p>	<p>文字カードの呈示前に手をひかせて、見る態勢を整える。</p> <p>先出しの〔か〕の呈示の動きに反応して手が出ないように、必要に応じて「まだだよ」と言う。</p> <p>〔に〕を選ぶ様子が見られたら、「こっち」と〔か〕を指差しする。</p>

### 3. 研究協議

研究授業終了後、研究協議が行われました。特別支援学校の先生方、障害支援施設の職員の方の参加がありました。

研究協議は、(1)授業者からの補足説明、(2)質疑応答、(3)「2文字の単語構成の学習」・実技指導と説明、(4)研究授業・研究協議のまとめ、以上の順番で進められました。

#### (1) 授業者からの補足説明

本児はとても好奇心旺盛で、発想がとても豊かです。好きなことは集中して取り組む様子が見られましたが、色々なものに興味を惹かれて、落ち着かない様子も見られました。そのため学習が定着しにくい状況がありました。最近では少しずつ文字学習にも慣れ、名称も覚え、学習も進んできています。出来るだけ集中できる時間を多くするために、環境設定や指導者の関わり方に留意をして学習を進めています。

#### (2) 質疑応答 (授業者・理事長宮城)

##### <参加された方からの感想>

- ・学習当初は集中することが難しいとのことでしたが、とても良く学習していたと思います。課題学習を継続することで、行動も落ち着いてくるのだということがわかりました。
- ・子どもの様子を良く見て教材を呈示していたと思います。お子さんもとても意欲的に学習に取り組んでいました。間違えさせないことは学習を定着させるために大切だと思いました。

##### <参加された方からの質問>

#### ◆文字学習に入る前にはどんな学習を行ってきたのでしょうか？

➡基礎学習を中心に行ってきました。基礎学習の内容は、①形の弁別 ②同じの概念形成 ③未測量の理解 ④空間概念の形成(方向・順序・定位・上下・左右) ⑤延滞です。その他に、手と手・目と手の協応動作向上のための学習等も行っています。

#### ◆文字を1文字ずつ教えるのではなく、どうして単語を構成する方法で学習するのですか？

➡1文字ずつ文字カードを呈示して読み方を教える方法は、似た文字を混同してなかなか覚えられないこともあります。(例、「わ」「れ」「ね」等) また、1文字ずつ読めるようになっても、単語のまとまりとして読めなかったり、その単語の意味がわからなかったりという様子も見られることがあります。

絵カードと文字カードを使って、単語を構成する方法の学習は、絵カードを用いることによって、文字で表される単語の意味がわかるようになります。また、1文字ずつの文字カードを順番に構成することによって、単語をまとまりとして読めるようになるだけでなく、文字を1文字ずつ読めるようになり、単語を構成する順番もわかるようになります。その為、1文字ずつ教えるのではなく、単語を構成する方法で学習を行います。

#### ◆文字を書く時、手に力が入りすぎてしまい、鉛筆の芯を何度も折ってしまう子どもの場合、どのように関わった方がいいのでしょうか？

➡文字を書く時は、書いている鉛筆の先の動きを子どもがしっかり見ることが大切です。その為、子どもと指導者は対面して学習します。子どもが右利きの場合は、指導者の左手で子どもの右手を援助します。文字が一人で書けるようになるまでは、すべて援助して書きます。鉛筆を持つと力が入りすぎてしまう子どもの場合、力の調整が上手くできない状態ですが、“書く気持ちがある”ともいえます。運筆にあったことばかけをして、指導者が力の入れ具合をコントロールして書くようにします。一緒に書くことで力の抜き方を教えていきます。初めは鉛筆ではなくマジックやサインペンを用いると書きやすいと思います。

### (3) 「2文字の単語構成の学習」・実技指導と説明（理事長宮城）

実技指導では、“文字カードが呈示されると、すぐに手を伸ばす子どもの場合”の呈示の仕方について学びました。

「指導者は子どもの手の動きにとらわれてしまいがちですが、ポイントは、“文字カードを目で見て選ぶこと”そのため、文字カードを手の届かない所に呈示します。子どもが文字カードを見た瞬間、「そうだね、これだね。」と言ってポインティングし、その文字カードを子どもの近くに移動します。このように関わることによって、文字カードを目で見て選ぶことを教えます。その結果、文字カードを良く見てから手を伸ばすことができるようになっていきます。」

“目で見て選ぶ”。このことを子どもに教えることが大切だとわかりました。

### (4) 研究授業・研究協議まとめ（理事長宮城）

様々なことに影響を受け、色々なものに興味を惹かれて行動をしてしまうお子さんは、集中力がなくできないことが多いように見える。

しかし、その行動を直そうとするのではなく、学習の中で教材を通し、指導者とコミュニケーションをとりながら育てていくことが大切である。

最も大切なことは、“目と手をゆっくりさせること”。 ①よく見ること ②見てから手を動かすこと ③手の動きをゆっくりすること。この3つが大切なポイントである。

これらの行動は個別の学習の中で養われていく。また、指導者は子どもと関わる時、この点に注意しながら学習を進めていく必要がある。

**次回の定例研究会は6月を予定しています。たくさんの方々の参加をお待ちしています。**